



わたしの聖戦

163

女性が働くことについて
医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津恵

未婚者の事情

結婚しない人が増えて
いる。

統計数字を改めて見る
までもなく、周囲を見渡
せば一目瞭然。いわゆる
バツイチも含め、男女と
もに独身者の何と多いこ
とか。

生涯未婚率という統計
がある。50歳時点で一度
も結婚していない人の割
合だ。これをみると20
10年の生涯未婚率は女
性が10.6%、男性は
20.1%である。あと20
年後には、女性のそれは
20%近く、男性は30%に
ものぼると推測されてい
る。私が若い頃は、「適
齢期」の言葉もあったが、
今や死語に近い。ヘタす
るとセクハラ用語だと指

摘されるだろう。

日本は、ほとんどの場
合出産は結婚を前提にし
ているため、これでは少
子化も当然の結果。未婚
者が多ければ子どもが増
えるわけがない。少子化
の要因は、女性の高学歴
化でも社会進出でもなく、
つまるところ男性の雇用
の不安定さや収入の低さ
に集約されるのだ。

雇用状況や収入が不安
定な男性は、なかなか結
婚に踏み込めないという
事実は動かしようがない
が、彼らを取り巻く環境
をみると、少々気になる
ことがある。

それは、親への依存度
が強いことだ。子どもと
いえども、ある程度の年



齢になれば親元を離れ一
人暮らしをするのが当た
り前だと思っていたが、
どうも世間は違わらしい。
いわゆるパラサイトシン
グルと呼ばれる層がクロ
ーズアップされて久しい
が、未婚のまま親と同居
する若者は増加する一方
のようだ。今は、パラサ
イトしていた親が亡くな
って、残された未婚者は
親の財産を使い果たし、
やがては貧困の暮らしに
身を置くケースも多いと
聞く。

親と同居せざるを得な
い裏事情として、住居費
が高いこともあるのだろ
うが、それは見かたを変
えれば単なる甘えとしか
映らない。親と同居して

いる若者ほど結婚に消
極的だという統計デー
タもある。とにかく、
まずは親元を出る、と
いう自立の第一歩を怠
ってきたツケが、日本
の未来を暗く覆ってい
る。

親と同居する未婚者
には、介護という大き
な仕事が付いている。話
題になった事件に、京都
で起こった心中未遂事件
がある。介護のために仕
事を辞めざるを得なかつ
た男性が、認知症の母の
首を絞め殺人に至った。
当時、その際の親子のや
り取りに裁判官も涙した
と話題になった事件だ。

男性が「もう生きられへ
ん。ここで終わりやで」
と母に告げると、母が
「そうか、あかんか。一
緒やで」と返したという。
「お母さんのためにも幸
せになる努力をして」の
言葉とともに執行猶予付
きの判決だったが、10年
経ってその男性は自ら命
を絶つ。亡くなったとき
に身につけていたカバン

には、へその緒と、「一
緒に焼いて欲しい」とい
うメモが残されていたと
いう。

これに似た事件は、今
や珍しくない。介護の社
会化を目ざして施行され
たはずの介護保険制度や
生活保護の在り方を問い
ただす必要性は確かにあ
るが、私が着目したのは
親と子の関係性だ。結局、
この男性は死ぬまで母親
から自立できなかったの
だ。自分の人生を作り上
げるきっかけを掴むこと
ができなかった、それは
親の責任でもある。

とりわけ日本では、母
親と息子間の濃密さや粘
着性が目につく。親には
親の人生、子には子の人
生があるはずだ。諸外国
では心中は虐待とみなさ
れる。徹底した個人主義
が良いとはいわないが、
個々が自立してはじめて
家族の関係性がまっとう
に築けるのだと思う。
このままでは日本の未
来に光はささない。
イラスト・伊藤栄章